

米国ワシントン州 2024年のリンゴとサクランボは正常化

[FreshPlaza 2024年12月12日](#)

ナシとコスト上昇の課題があるもののワシントン州の2024年の果実の収穫は正常化

ワシントン州果樹協会(WSTFA)は、悪天候の影響を受けた2年間の困難な年を経て、2024年のリンゴとサクランボの収穫が正常化したと報告した。WSTFAのジョン・デバニー会長は、サクランボの収量が前年比で12%増加したことを指摘し、生育条件が回復したことを強調した。この回復の前には、米国農務省(USDA)がワシントン州とカリフォルニア州のサクランボ生産者に災害救援を認めるほど収穫に深刻な影響を受けていた。2024年のWSTFA年次総会のテーマである「Navigating Adversity(逆境を乗り越える)」は、こうした困難の中でのこのセクターの回復力を反映したものである。

逆に、ナシの生産者は、1月の低温によりナシ収穫量の3分の1が失われたため、大きな後退を強いられた。一方、リンゴ生産は、約1億2,400万箱(40ポンド/箱)が収穫され、ほぼ平年並みの水準に戻った。これは、2022年の収穫量が著しく少なく、その後2023年に大豊作となったことに続くものである。これらの数量的な状況にもかかわらず、デバニー会長は、営農コストの上昇が生産者の収益の上昇を上回っていることに懸念を表明した。これらのコストには、燃料費、人件費、農薬費、消耗品等が含まれる。

一方、以前は関税によって制限されていたインド市場の再開は、リンゴの輸出を著しく押し上げた。さらに、ガラが引き続き同州で最も多く栽培されているリンゴ品種であり、グラニースミス、レッドデリシャス、ハニークリップ、ふじがそれに続く中、有機リンゴと新品種の生産が増加した。

出典: [Columbia Basin Herald](#)

米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-48 2024年12月13日\(16日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、オレンジ郡ミッションビエホ地域の約85平方マイルである。APHISは、ロサンゼルス郡の住宅地から採取された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地は約0.4エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年11月27日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)